

# 建設産業女性定着支援 ネットワーク 全国大会 2023



国土交通省



一般財団法人

建設業振興基金

## 1. 開催概要

- 目的：次期行動計画の策定を見据えた女性のさらなる活躍・定着に向けた諸課題について登録団体間での意見交換を実施し、登録団体の交流促進およびネットワーク団体の取り組み等を業界内外へ周知する。
- 日程：令和6年2月13日（火）14：00～16：30
- 開催方法：対面（浜離宮建設プラザ10階大会議室）とWEB（ZOOMウェビナー）の併用  
開催後YouTubeにて意見交換の様子を公開
- 参加団体：（対面参加）ネットワーク登録21団体、建設業団体、国土交通省、（一財）建設業振興基金  
（ZOOMウェビナー参加）ネットワーク登録18団体、国土交通省、建設業団体 ほか  
※対面・WEB両方に参加している団体は重複してカウント
- 参加人数：（対面参加）63人  
（ZOOMウェビナー参加）51人＋一般視聴者※  
※ネットワークの取組を広く業界内外へ周知するため、一般視聴を可能とした。  
業界紙等で周知を行い、102名の視聴申込があった（事前申し込み制）。
- アンケート：ZOOM参加とYouTube視聴それぞれの一般視聴者に対し、  
柔軟な働き方や若年層向けの魅力発信に関するアンケートを実施

## 2. 実施内容

○開会挨拶 国土交通省 不動産・建設経済局 官房審議官 楠田 幹人 様

### ○議事

(1) 建設産業女性定着支援ネットワークの取組み状況

→事務局より説明。

(2) 登録団体の取組紹介

→以下団体から、取組についての紹介。

日本建築仕上学会女性ネットワークの会

(3) グループ意見交換会

→参加団体を対面参加4グループ、WEB参加3グループに分け、以下テーマに沿って意見交換を実施。

<テーマ>

次期行動計画の策定を見据えた女性のさらなる活躍・定着に向けた諸課題について

小テーマ①「働きやすい現場の労働環境の整備」について

小テーマ②「建設産業の魅力、働きがいの発信などによるイメージ戦略」について

○閉会挨拶 建設産業女性定着支援ネットワーク 幹事長 須田 久美子 様



↑ グループ意見交換会の様子



↑ 集合写真

## 3. グループ意見交換会における各団体からの声

<テーマ> 次期行動計画の策定を見据えた女性のさらなる活躍・定着に向けた諸課題について

### <小テーマ①> 「働きやすい現場の労働環境の整備」について

- ・快適トイレについては、進んでいるところもある一方でまだのところも多い。今は推奨段階ではなく、次の段階として例えば設置義務にするなどしなければ100%設置は難しいのではないかと思う。
- ・トイレと更衣室をセットで使える環境も必要。特記仕様書に明記して設置が当たり前になるようにするべき。
- ・ある会社では作業服にナプキンを入れる専用のポケットをつけたという事例もあった。共用のトイレにはサンタリーボックスが置いてある所が少ないので、そうした面の改善についても検討を進めていくとよいのではないかと思う。
- ・生理休暇は上司が男性だと相談しにくい面がある。生理休暇の名称を変えて男女問わず利用できる制度にすることが良いと思う。
- ・男性の経営者や上司に女性特有の健康問題を理解してもらう必要がある。
- ・働きやすい現場の労働環境の整備は経営者の理解促進が重要で、制度が変わっても上の人の考え方が変わらなければ変化しない。
- ・一人の責任が大きくなってしまふと休みにくくなってしまふため、シェアできる仕組みづくりが重要。
- ・子育てしやすい産業を目指すには、朝礼をフレックスタイム制にすることや、現場に保育所を併設することが有効である。

### <小テーマ②> 「建設産業の魅力、働きがいの発信などによるイメージ戦略」について

- ・小学校・中学校・高校に魅力を伝えていくには、行政との連携が非常に重要。
- ・建設産業には面白い機械が沢山あるため、機械の実践体験をベースとしたイベントは評判が良い。
- ・女性も機械を駆使することで建設産業で働けるようになってきている点や、デジタルに精通した人たちも必要である点をアピールすることが大切。
- ・現場で働く人の声を聞く機会を設けて、ライフイベントを含めてキャリアアップが見える化することが大切。
- ・現在建設業では文系の学生でも働ける仕事がある。建設分野を学歴にとらわれず挑戦できる業界にしていくことも必要。
- ・工事現場は仮囲いで閉じているため入ってはいけない雰囲気がある。安全管理の部分を考慮しつつ、現場自体をアピールすることも今後考えられるのではないか。
- ・建設産業に興味を持つ子どもは小中学生に多いと思うが、いざ就職となると建設産業が選ばれない。原因として、建設産業のカッコよさのアピール不足が考えられる。建設産業の魅力をアピールするツールを作っていくべきだと考えている。
- ・災害時、人命救助やインフラ整備など、建設産業は社会貢献できる仕事であることを紹介できるツールがあると良い。

## 4. アンケートの実施

### ○概要

全国大会の一般視聴者に対して、今後の建設産業女性定着支援ネットワークの活動や次期行動計画の策定の参考にすることを目的として、以下のとおりWEBアンケートを実施した。なお、アンケートは当日ZOOMで視聴頂いた方々（ZOOM視聴者）と、全国大会の一部を抜粋・編集し後日YouTubeで配信した動画を視聴頂いた方々（YouTube視聴者）に対して実施した。

### ○実施概要

調査方法	Googleフォーム
調査スケジュール	全国大会 ZOOM視聴者： 令和6年2月15日～令和6年2月29日 全国大会 YouTube視聴者： 令和6年2月27日～令和6年2月28日
回答数	全国大会 ZOOM視聴者：63件（有効回答 61件） 全国大会 YouTube視聴者：1000件（有効回答 983件）

### ○主な調査項目

- ・全国大会に関する意見
- ・男女問わず働きやすい労働環境の整備に必要なこと
- ・若い世代（主に高校生以下）に響く建設産業の魅力やPR手段 など

## 5. アンケート総括

○回答者の属性：ZOOM視聴者は8割が建設企業勤務、YouTube視聴者は建設企業勤務以外が8割を占めた。  
→両者の結果を比較し、業界内（ZOOM視聴者）・業界外（YouTube視聴者）それぞれの回答の傾向を分析。

### ○次期行動計画策定に向けて

- 男女問わず働きやすい労働環境整備のために必要だと思うことの自由記述において、業界内（ZOOM視聴者）では処遇改善をはじめとした様々な意見があった一方、業界外（YouTube視聴者）では働く環境を課題とした人が多かった。  
→労働環境の整備を推進しつつ、変わりつつある労働環境の改善状況を業界外に発信し**イメージアップを図る**ことが重要。
- 若い世代（主に高校生以下）に最も響くと思う建設産業の魅力は、業界内（ZOOM視聴者）では「人の命や暮らしを守る仕事」との回答が他の選択肢よりも10%以上多かったが、業界外（YouTube視聴者）では他の選択肢と同等の数値となった。  
→災害時対応をはじめとした**命を守る仕事としての建設産業の重要性を、積極的に業界外に発信**していく必要がある。
- 若い世代（主に高校生以下）に向けた建設産業のPRについて最も効果があると思う手法について、業界外（YouTube視聴者）はSNS（インスタグラム、X等）の活用が約7割を占め、業界内（ZOOM視聴者）ではそれぞれ2割程度を占めていた。「建設産業を題材としたコンテンツ」「現場見学会」については半数以下となり、業界内外でPR手段の効果に対する認識に相違が見られた。  
→業界としては、体験型イベント（出前授業、イベント出展等）や現場見学会のみならず、**若い世代に馴染みのあるSNS**をより積極的に活用して建設産業をPRしていくことが求められる。